

木曽川右岸施設の通水量が 累計 20 億 m³ に到達しました

令和元年8月18日に木曽川右岸用水の農業用水、水道用水、工業用水をあわせた通水量が累計 20 億 m³ に到達しました。

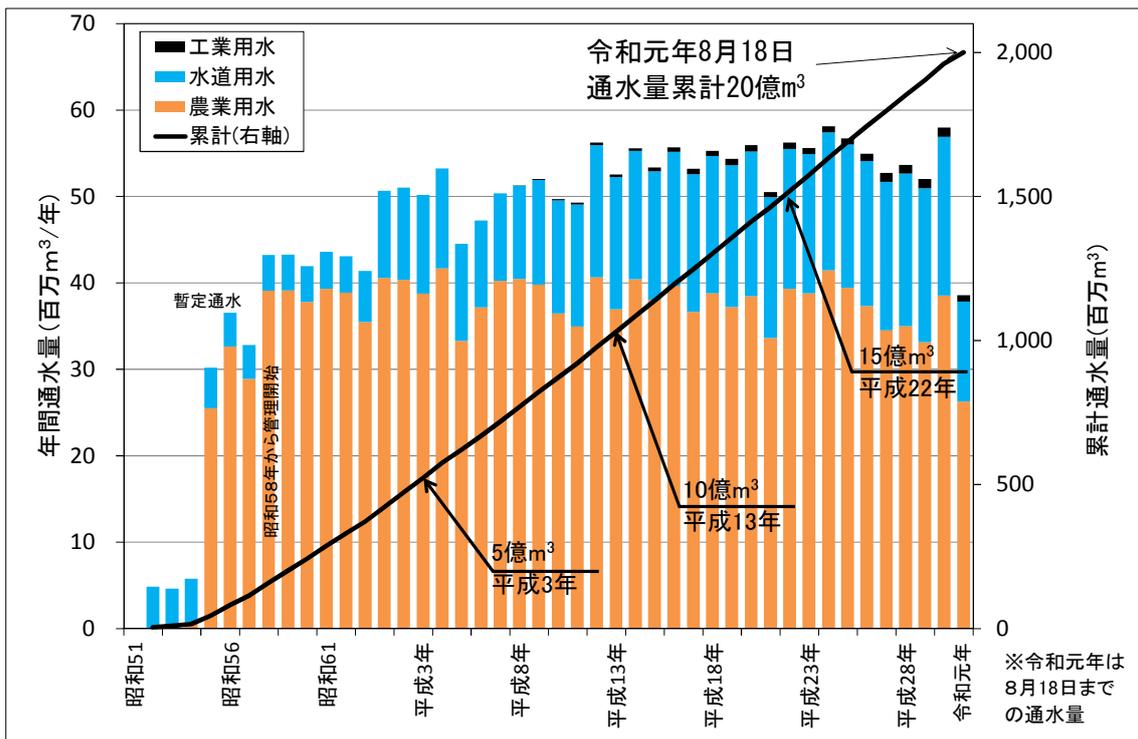
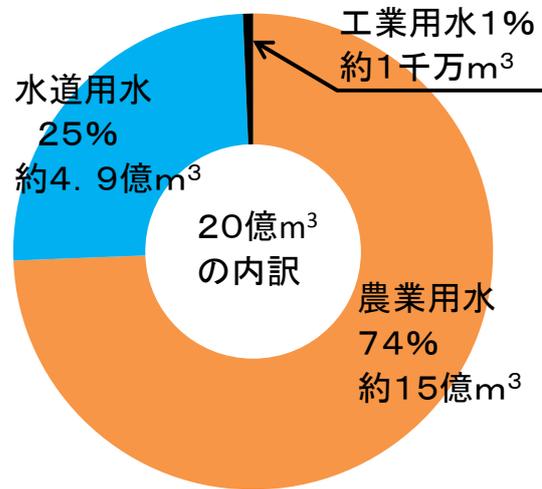
昭和 51 年に通水開始し、平成 3 年に 5 億 m³、平成 13 年に 10 億 m³、平成 22 年に 15 億 m³ に到達し、約 43 年間で 20 億 m³ となりました。

20億m³は
ナゴヤドームの約1,200杯分
蜂屋調整池では約4,000杯分



木曽川右岸施設は昭和 51(1976)年 11 月から水道用水の暫定通水、昭和 55 年 4 月から農業用水の暫定通水を開始しました。工業用水は平成 8 年 4 月から開始しています。

農業用水は美濃加茂市、七宗町、川辺町、坂祝町、富加町、関市、八百津町の2市5町の約 3,000ha の水田や畑へ、水道用水は岐阜県の山之上浄水場と八百津町の上飯田浄水場から2市5町の給水市町へ、工業用水は美濃加茂市、坂祝町の12事業所へ水を供給し、地域の水を支えています。



※令和元年は8月18日までの通水量

木曾川右岸施設は白川町にある中部電力上麻生ダムの上流の飛騨川右岸の白川取水口で取水し幹線水路により流下し、農業用の支線用水路や水道用水及び工業用水に分水しています。

年間の通水量は約5~6千万 m³ となっており、その内訳は 66%が農業用水、32%が水道用水、2%が工業用水となっています。(H30 年)

木曾川右岸地区は、古くから眼下に木曾川・飛騨川の水を見ながらも水不足に悩み、小河川やため池に依存した水源の乏しい地域でした。昭和 25 年、県営事業で川辺・米田・森山の三用水が建設されましたがいずれもポンプアップによる補給水で管理コストが高むものでした。また、地域全体としては十分ではありませんでした。

中部経済圏の発展により都市用水への期待も高まり、木曾川総合用水事業として、岐阜県南部一帯の木曾川右岸地区に対して農業用水、水道用水、工業用水を供給することを目的として昭和 43 年に水資源開発公団による建設が始まり、昭和 58 年に完成し管理に移行しました。



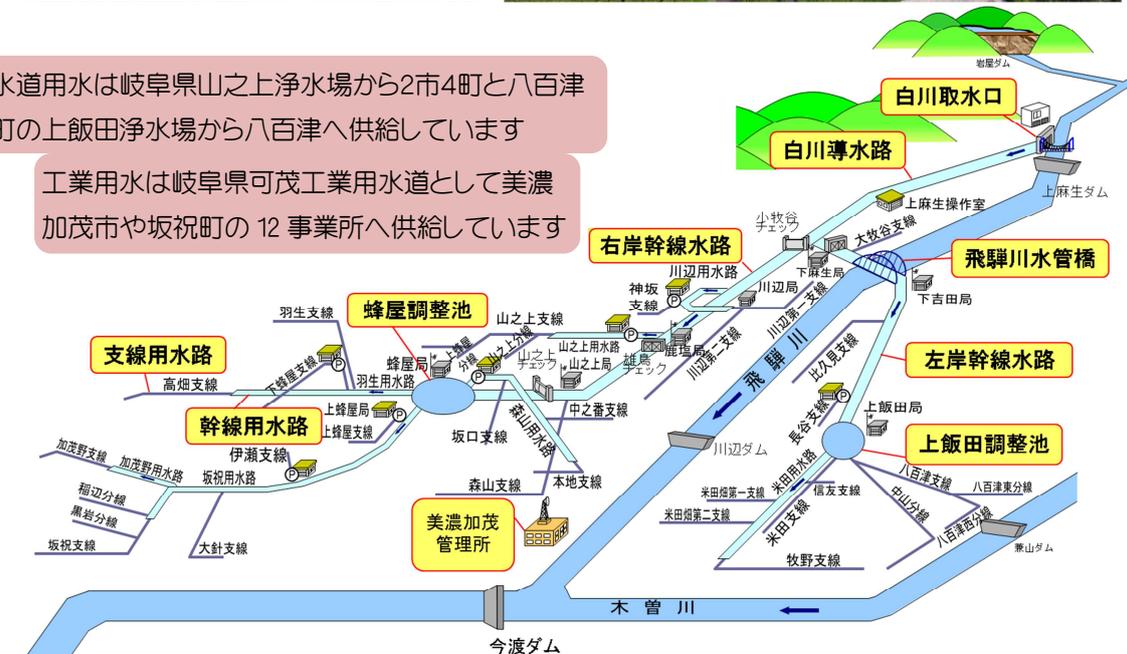
幹線水路



蜂屋調整池

水道用水は岐阜県山之上浄水場から2市4町と八百津町の上飯田浄水場から八百津へ供給しています

工業用水は岐阜県可茂工業用水道として美濃加茂市や坂祝町の 12 事業所へ供給しています



農業用水は美濃加茂市などの2市5町の約 3,000ha の農地に供給しています

独立行政法人 水資源機構 木曾川用水総合管理所 美濃加茂管理所
 〒505-0021 岐阜県美濃加茂市森山町4-9-20 tel (0574)25-2121 fax (0574)28-3354